

小笠原 亮

櫻花圖卷



普賢象
此花如牡丹弁多くカサナリ
色紅木太く花中ノ色薄ク
花外紅濃此花名嶋ノ花ノ如
二葉アリ



右上から 西行、辨殿桜（此花紅少し紫色帯）
中上から 千里香、法輪寺、白山ノ旗
左上から 小督桜、名嵐桜

「櫻花圖卷」

雑花園文庫蔵

サクラは一五〇〇年代までは京都を中心に品種が集まり、一六〇〇年代になると江戸にも多くの品種が集められたり育成された。一八〇〇年代にはその数二百数十種に及ぶ。そうした品種を今日に伝える資料も数多く残されている。そのひとつとして『桜花図巻』を紹介する。

作者は広瀬花隠。花隠の名は自勝、京都の人。初め狩野派に学び、後にサクラの画家として名のある三熊花頼に師事し、本人もまたサクラの画家として名を残すに至った。文政三（一八二〇）年没。『六六桜譜』『三十六花撰』などの作品が帖仕立本とか、一種ずつを掛軸とした作品が今日に伝わる。

当図巻はそれらの作品を画くうえの写生草稿本であり、紙本、天地五三cm、長さ六八三cmいずれも実物大、なかには大きな枝に花一杯につけ一部彩色一部は白描のままの花もある。前記作品として残された図に比し、迫力があり、より真を伝える資料である。

描かれているのは五一図四九種であり、次の通り。今日なお半数以上が現存するのは嬉しいことである。

- 浅黄、御衣黄、千本、夕榮、松月、嫩木、
- 暁、一葉、芳野、桐谷、御車還、西行、辨殿
- 法輪寺、白山旗、鶯ノ尾、塩竈、千里香、名
- 嶋、小督、醍醐、浅黄絞、布引、廊間、泰山
- 府君、芙蓉峰、王昭君、薩州緋、紫、小町、
- 丁字、糸括、駒留、薄墨、御室、初瀬山、蘭
- 麝白、金玉、玉簾、小塩山、大菊、白延命、
- 紅延命、滝、月暈、鞍馬山、駒繫、地主、普
- 賢象である。